

令和6年度全国病弱虚弱特別支援学校長研究協議会

本校における「自立活動」の取組

令和6年6月28日（金）

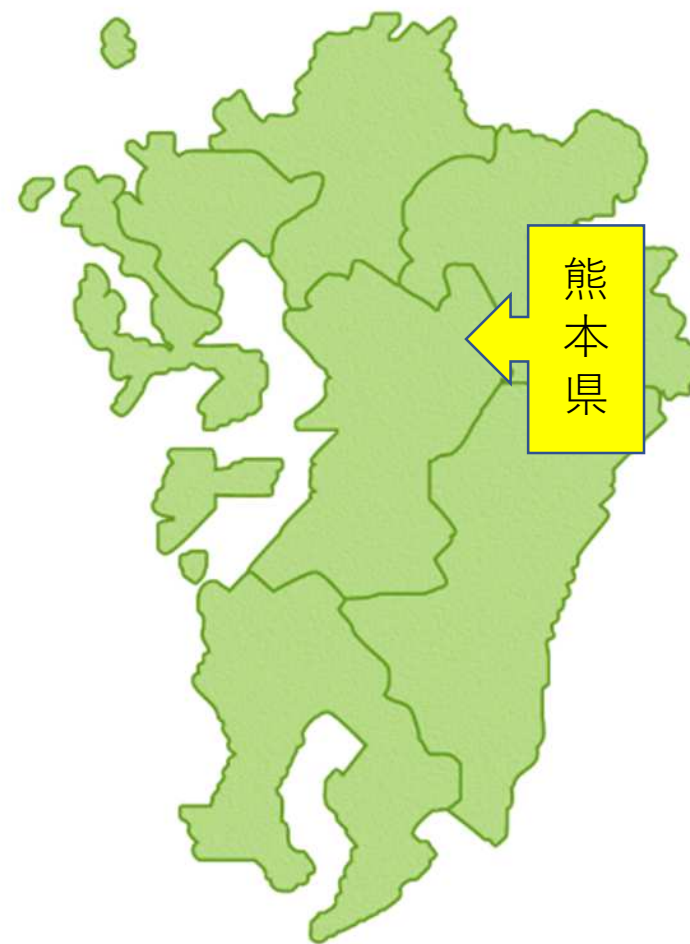
熊本県立黒石原支援学校 前川 美穂子

本日の話題

- 1 熊本県立黒石原支援学校について**
- 2 本校における自立活動の指導**
- 3 職員の専門性向上の取組**
- 4 課題と本年度の取組**

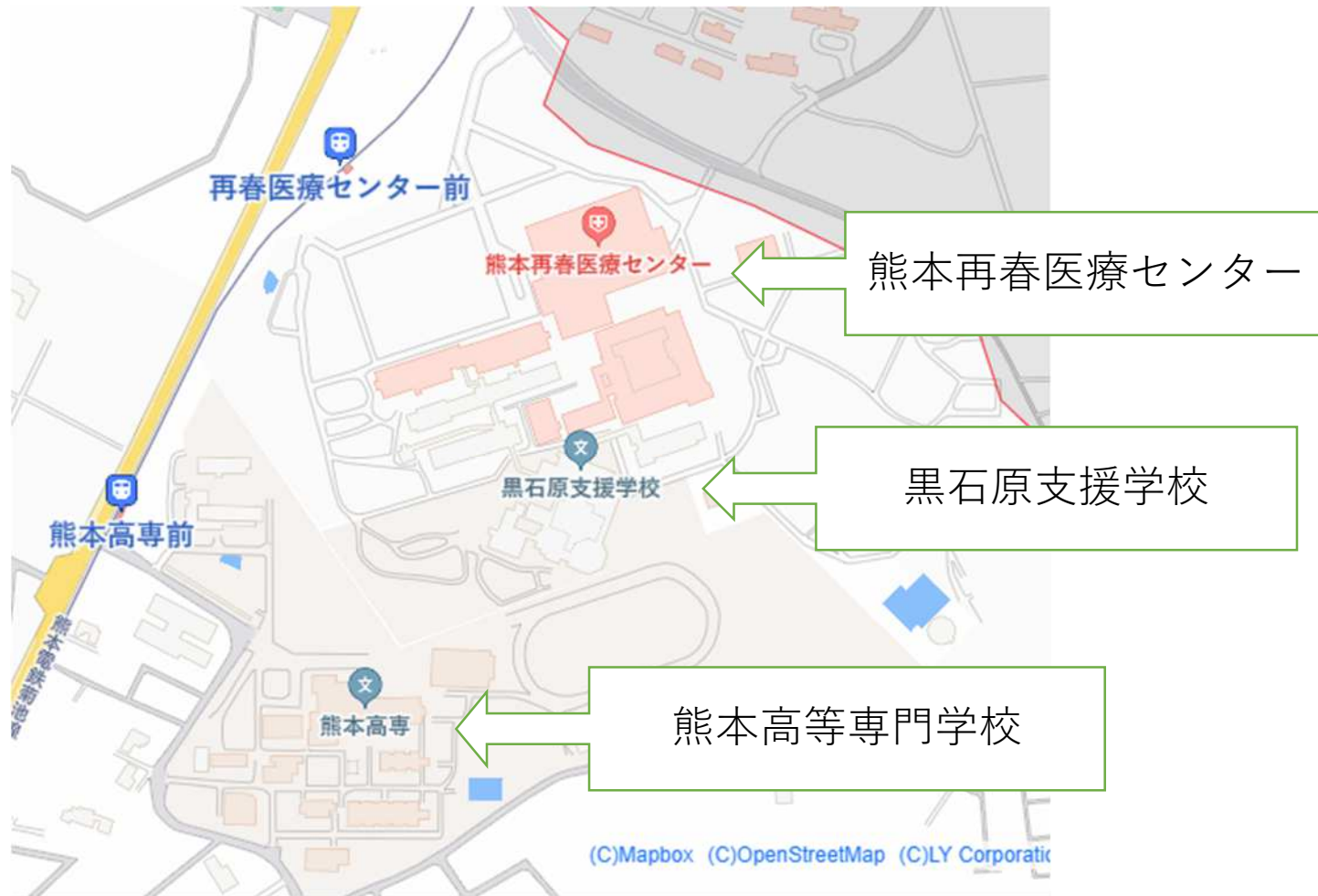
1 熊本県立黒石原支援学校について

(1) 場所



1 熊本県立黒石原支援学校について

(1) 場所 熊本再春医療センターに隣接



1 熊本県立黒石原支援学校について

(2) 対象

熊本再春医療センターに入院、または、病気の
ために治療や生活規制が必要な児童生徒



校章



(3) 令和6年度 在籍児童生徒

全校児童生徒 82人

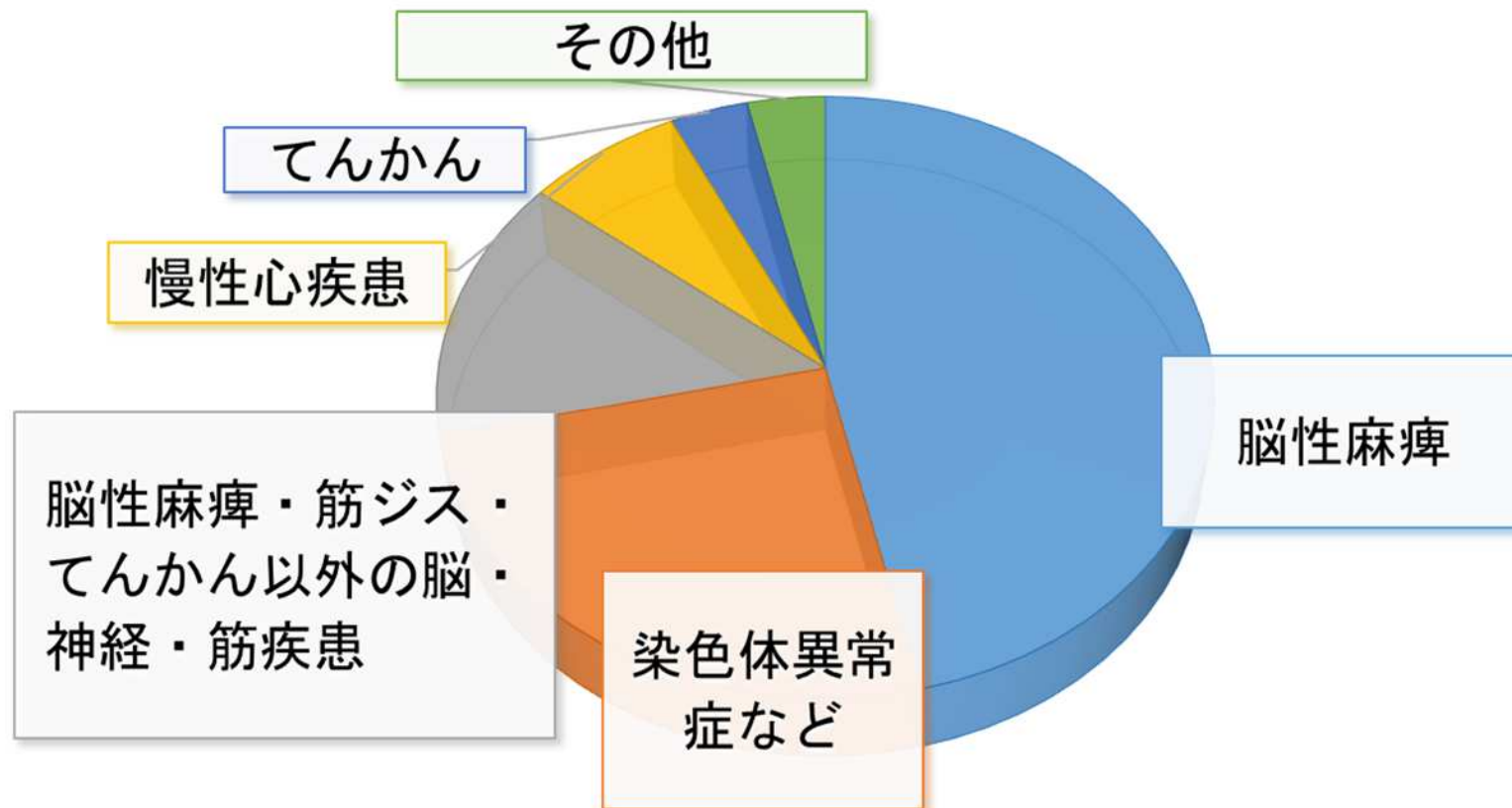
(令和6年5月1日時点)

- ・小学生 24人
- ・中学生 23人
- ・高校生 35人

- ・自宅通学生 63人
(訪問教育(内数) 6人)
- ・病棟生 19人
(訪問教育(内数) 6人)

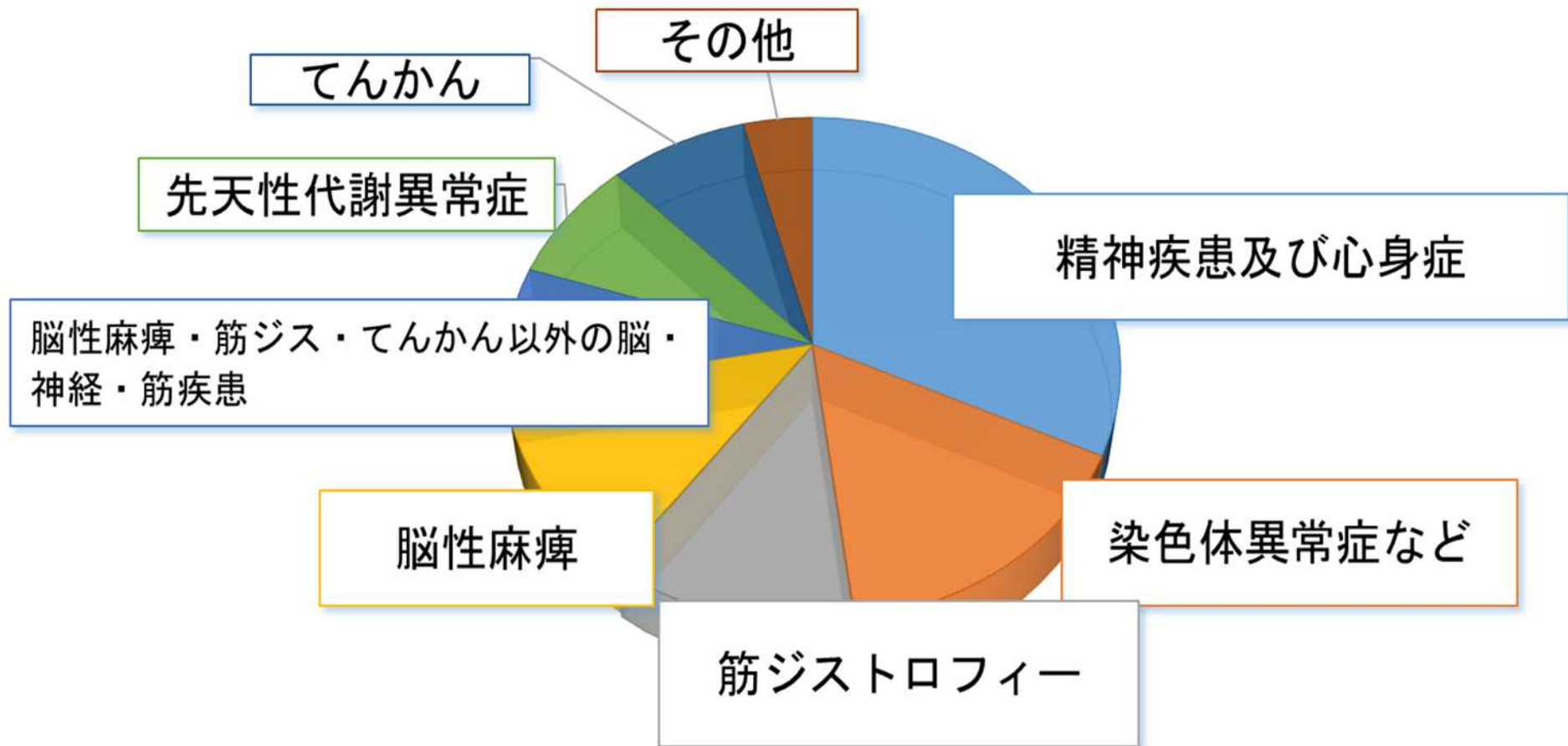
(4) 在籍児童生徒 疾患の状況

ア 小学部 (R5)



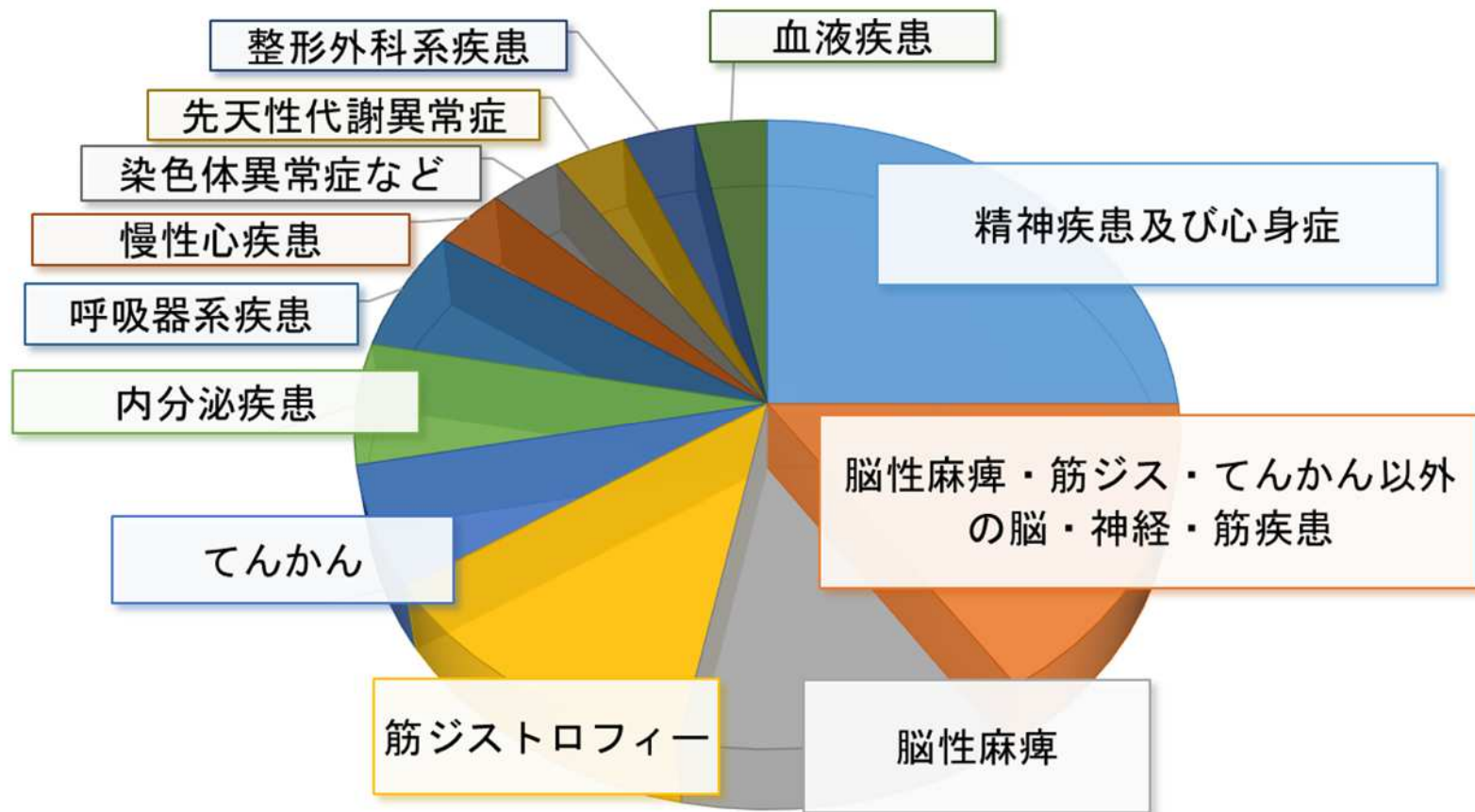
(4) 在籍児童生徒 疾患の状況

イ 中学部 (R5)



(4) 在籍児童生徒 疾患の状況

ウ 高等部 (R5)





(5) 教育課程

小学部

中学部

高等部

I 課程 (準ずる教育)

II 課程 (知的障害特別支援学校の教育課程)

III 課程 (自立活動を中心とした教育課程)

訪 問 教 育

1 熊本県立黒石原支援学校について

(6) 課程別疾患状況

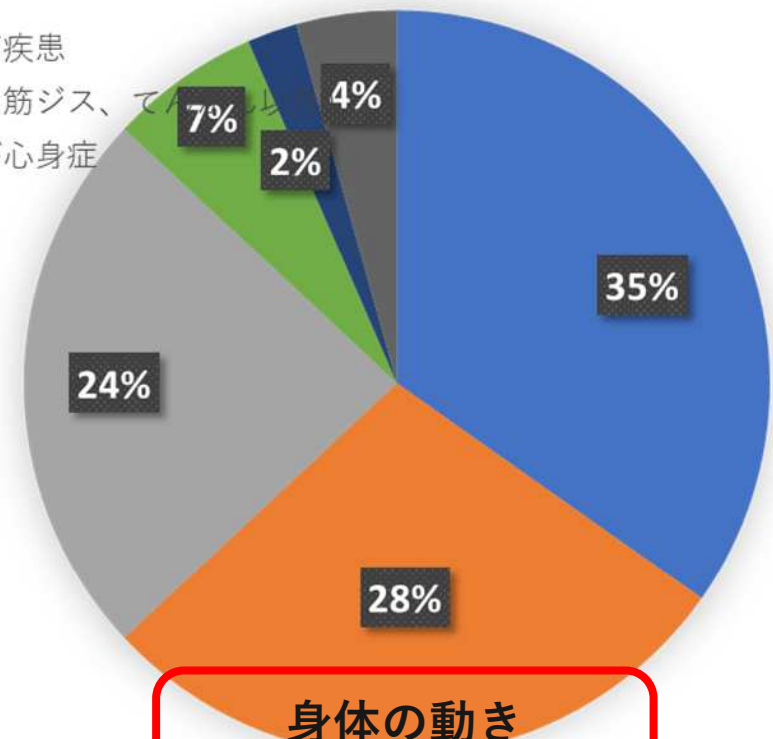
I、II 課程



心理的な安定
健康の保持等

III 課程、訪問

- 脳性まひ
- 染色体異常
- 脳・神経・筋疾患 (脳性まひ、筋ジス、てんかん)
- 精神疾患及び心身症
- 筋ジス
- てんかん
- 慢性心疾患
- 内分泌疾患
- その他



身体の動き
環境の把握等

2 本校における自立活動の指導

(1) 多様さゆえに、シンプルな取組

実態把握→目標・指導内容設定→指導→評価

(2) 取組の概要

ア 配当時数

イ 取組の工夫

(3) 指導の実際（事例1）

(2) ア 配当時数

(ア) I II 課程

a I 課程

- ・ 小学部 週 2 時間
- ・ 中学部 週 2 ~ 3 時間
- ・ 高等部 週 2 時間

b II 課程

- ・ 小学部 週 2 時間
- ・ 中学部 週 6.5 時間
- ・ 高等部 週 3 時間

(2) ア 配当時数

(イ) Ⅲ課程、訪問教育

c Ⅲ課程

- ・ 小学部 週 2 0 ～ 2 3 時間
- ・ 中学部 週 1 6 ～ 2 3 時間
- ・ 高等部 週 1 4 ～ 2 1 時間

d 訪問教育

- ・ 小、中、高 週 6 時間

(2) イ 自立活動における工夫

(ア) 複数の目で実態把握、指導、評価等

- ・ グループ研修の活用

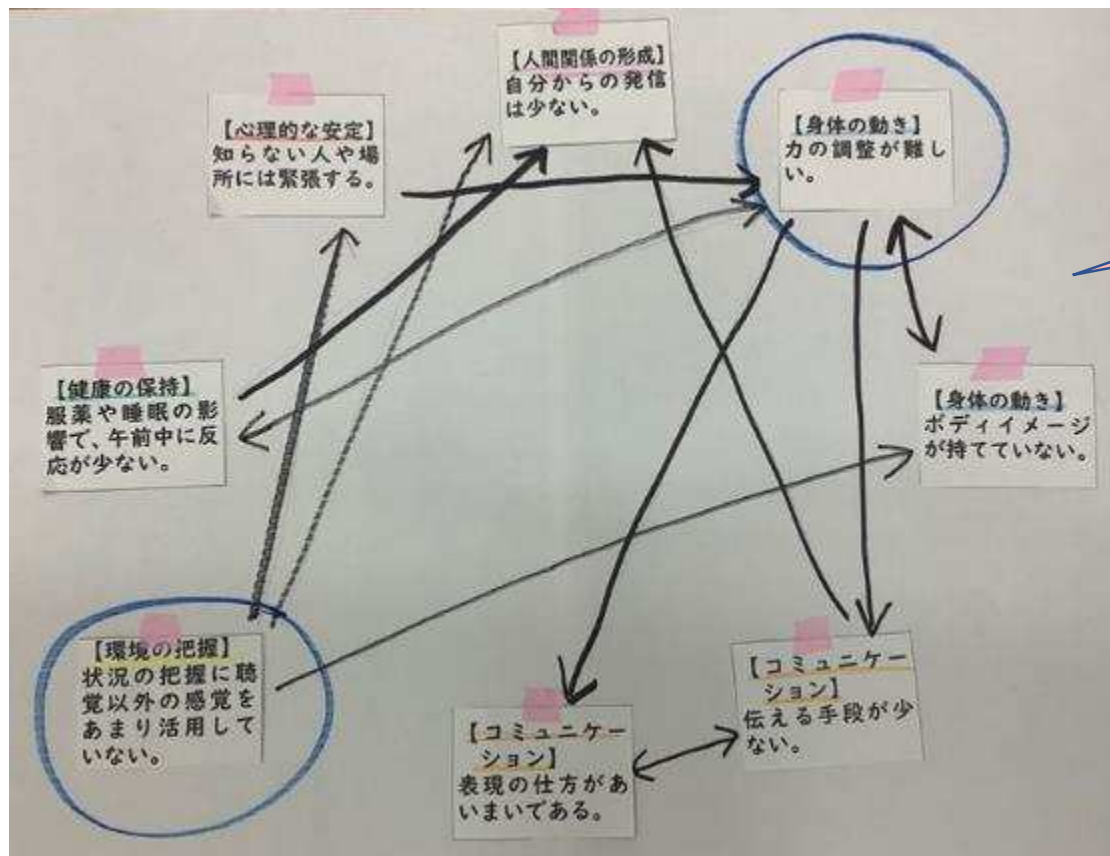
(イ) ベテランが助言

(ウ) コーディネーター（校内人材）等の活用

(エ) 引継ぎにおける動画の活用

(2) イ 自立活動における工夫

(オ) 「課題関連図」の活用



「学びの履歴」と「目指す姿」から課題を抽出

- ・ 中心課題を明確に
- ・ 指導目標につなげる

(2) イ 自立活動における工夫

(カ) 医師、SCからの助言

- 生徒が受診、カウンセリングを受けた後、担任と情報を共有。今後の方向性を明確に。
- 学校がやるべきことについては、関係職員で共有。関係職員全員で取り組み、次回の受診・カウンセリングで医師・SCに報告。
- 記録を残し、持続可能なPDCAで

(2) イ 自立活動における工夫

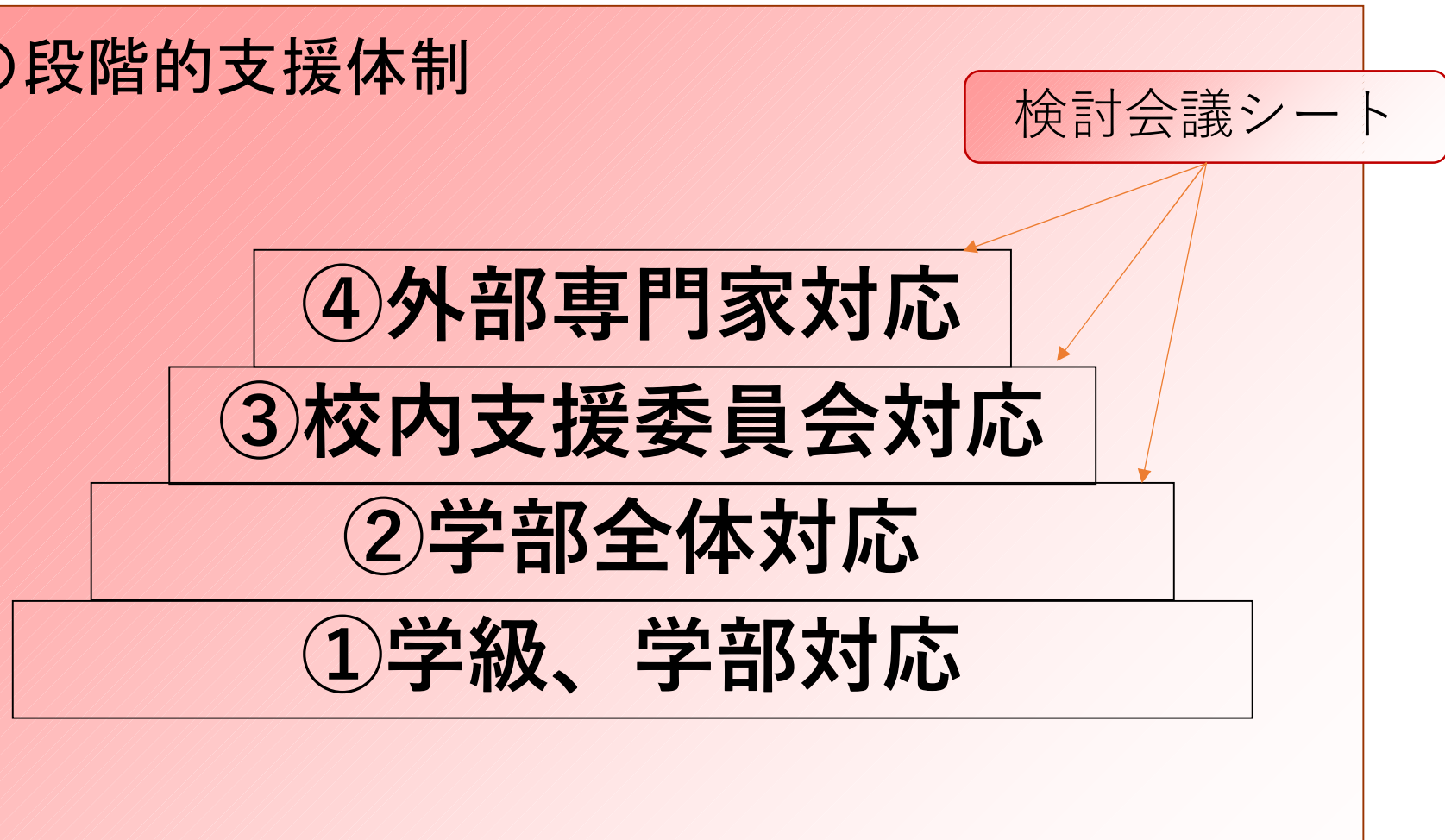
(キ) 「検討会議シート」の活用

検討会議シート		令和 ○年 5月 20日 (○) 記入者氏名 (学部主事)	
		熊本県立 (黒石原支援) 学校 (○学部○) 課程 (○) 年 (○○)	
期待する生徒・児童の姿	好きなこと・得意なこと	できていること	
気持ちが落ち着かないときに、気持ちを切り替えられるような方法をいくつか持ち、選べるようになって欲しい。	ビーズ、折り紙 AKB48、○○	疲れた時や集団参加に不安があるときに、休憩や退室等の要求を言葉で伝えることができる。	
出席者：担当、担任、養護教諭、学部主事		- 評価日 6/17 (○)	
【課題は何か (課題の特定)】	【なぜ課題は生じるのか (課題の分析)】	【解決策 (計画)】	【評価 (変更と課題)】
<ul style="list-style-type: none"> - 困り感は何? (学習・生活・対人関係) - 最優先課題は? 	<ul style="list-style-type: none"> - 課題の原因を推測する 	<ul style="list-style-type: none"> - 課題を解決するためにやってみることに、何が、いつ、何をやるのか? 	<ul style="list-style-type: none"> - この手立てでうまくいったか? ○効果あり、△効果なし、-実施無し
<ul style="list-style-type: none"> - 繰り返しにパニック?になる。左腕を噛む自傷行為も見られる。 	<ul style="list-style-type: none"> - 疲れている、帰りたい、嬉しいといった、いろいろな状況の時に、気持ちの高まりがあるからと推測する。 	<ul style="list-style-type: none"> ①投げたり壊したりする行為になる前に、自分から気持ちを表現する方法を教える。 例) 嬉しいときには、ガッツポーズをする。疲れているときは、助けてカードを出すなど 	<ul style="list-style-type: none"> 担当 担任 担当
	<ul style="list-style-type: none"> - 動くことを制限されているので、ストレスがあるのではないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ②ビーズや折り紙など、集中する活動だけでなく、体を動かして発散するような活動を取り入れる。 例) ボールを投げたて。スライムをガラス面に投げた。フリスビー、ダンス 	<ul style="list-style-type: none"> 担当 担任 担当
		<ul style="list-style-type: none"> ③自分の好きなものを用意しておく台を本人が居る範囲に設置することで、心の安定を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 担当
			<ul style="list-style-type: none"> ④目標を達成した時や作品を作りあげた時に、ハイタッチをするようにした。力も発散できるため、気持ちの切り替えにつながった。ただし、達成する前や作り上げる前に帰ることが多く、対応が難しかった。本人は、イライラするような活動を満足しないようになってきている。 ⑤生徒の好きなキャラクターのついたリストバンドを用意した。初めのうちは気に入って着けていたが、邪魔になるのか外すことが多くなった。 ⑥場所や時間確保が難しく、また話しても乗っ取らないこともあり、あまり実施できなかった。今後、自立活動で取り込む。 ⑦サブテーブルを用いたことで、自分が使いたい物や作った物を一時手放すことができる場面が増えた。
			<ul style="list-style-type: none"> ○△- ○ 継続 △ ○ 継続 ○ 継続

○誰が、いつ、何を
するのか 明確化
→働き方改革にも

(2) イ 自立活動における工夫

○段階的支援体制



(2) イ 自立活動における工夫

(ク) 「自分メーター」の活用：ⅠⅡ課程

自分メーター

記入日	令和 年 月 日	高等部 年 組 名前
-----	----------	------------

○この尺度表は、自分の得意なことや苦手なことを知り、これからの学校生活でどんな力をつけたいか、またどんな方がついているかを先生と一緒に考えるものです。気軽に今の自分について、答えてみましょう。

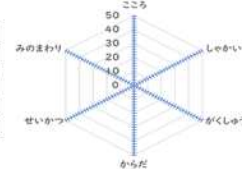
○つけ方・・・5段階評価で、1が「一番低く、3が普通、5が「一番良い評価です。

例 1ー全くそう思わない 2ーそう思わない 3ー半分くらいは思う 4ーまあまあ思う 5ーそう思う
 1ーできない 2ーできないことが多い 3ー半分くらいはできる 4ーまあまあできる 5ーできる
 1ーいつもある 2ーあることが多い 3ーある時とない時がある 4ーたまにはある 5ー全然ない
 1ー☹️ 2ー☹️ 3ー☹️ 4ー☹️ 5ー☹️

1 不安	①不安や悩みはありません。	1-2-3-4-5
	②自分の気持ちをコントロールできます。(イライラしても気持ちをなおされます。)	1-2-3-4-5
	③気になることがあっても、気持ちを切りかえてやるべきことができます。	1-2-3-4-5
	④頑張ろうと思う意欲や元気があります。	1-2-3-4-5
	⑤自分の気持ちや、自分の今の状態をわかっています。	1-2-3-4-5
	⑥自分の気持ちを言葉や文で伝えられます。	1-2-3-4-5
	⑦自分の気持ちは穏やかです。	1-2-3-4-5
	⑧少しのことでもテンションが上がったり、下がったりすることはありません。	1-2-3-4-5
	⑨自分のことを大切に思っています。または、自信をもてることがあります。	1-2-3-4-5
	⑩他の人のことを大切に思っています。	1-2-3-4-5
合計		点
2 しやかい	①集団の中で活動できます。	1-2-3-4-5
	②社会や学校のルール、ゲームのルールなどを守れます。	1-2-3-4-5
	③人(例えば友達や先生)と話すことができます。	1-2-3-4-5
	④友達とけんかや言い合いをしません。	1-2-3-4-5
	⑤家族(前売の職員さん)との関係は良いです。	1-2-3-4-5
	⑥学校の先生を頼むことができます。	1-2-3-4-5
	⑦異性の友達(男子は女子、女子は男子)とルールを守って仲良くできます。	1-2-3-4-5
	⑧活用できる友達や先生がいます。	1-2-3-4-5
	⑨困ったときは相談できる人がいます。(それはだれですか?)	1-2-3-4-5
	⑩表情や態度を見て、相手の気持ちがわかります。	1-2-3-4-5
合計		点
3 がくしゅう	①自分で計画的に学習できます。	1-2-3-4-5
	②先生の話を聞きながら、ノートをとることが出来ます。	1-2-3-4-5
	③先生の言っていることや指示がわかります。	1-2-3-4-5
	④文章を読んで、理解することができます。	1-2-3-4-5
	⑤漢字や英単語を書くことが得意です。	1-2-3-4-5
	⑥黒板をノートに写すことができます。	1-2-3-4-5
	⑦記憶力がいいです。	1-2-3-4-5
	⑧漢字や英単語がわかります。	1-2-3-4-5
	⑨苦手な教科でもがんばろうと思っています。	1-2-3-4-5
	⑩いろいろなことに挑戦しています。(身の回り、料理、公共施設での外出など)	1-2-3-4-5
合計		点

合計		点
4 からだ	①健康です。	1-2-3-4-5
	②手洗いが習慣です。	1-2-3-4-5
	③体力には自信があります。	1-2-3-4-5
	④できるときは行動できます。	1-2-3-4-5
	⑤運動が好きです。	1-2-3-4-5
	⑥必要な時には、じっとしてたり、待ったりすることができます。	1-2-3-4-5
	⑦においが気になって、困ったりつらくなったりすることはありません。	1-2-3-4-5
	⑧音や声に気になって、困ったりつらくなったりすることはありません。	1-2-3-4-5
	⑨光(照明やテレビ)に気になって、困ったりつらくなったりすることはありません。	1-2-3-4-5
	⑩物や顔の感触に気になって、困ったりつらくなったりすることはありません。	1-2-3-4-5
合計		点
5 せいかつ	①学校の通学や、人の話をきちんと聞くことができます。	1-2-3-4-5
	②見通しをもって計画的に行動できます。(何をしたらいいのかわかります。)	1-2-3-4-5
	③予定が変更されても平気です。	1-2-3-4-5
	④忘れ物はありません。	1-2-3-4-5
	⑤物をなくすことはありません。	1-2-3-4-5
	⑥整理整頓ができます。	1-2-3-4-5
	⑦学校に行くことができます。	1-2-3-4-5
	⑧教室に入ることができます。	1-2-3-4-5
	⑨学校(教室や保健室など)に居場所があります。	1-2-3-4-5
	⑩家に自分にとって安心できる場所があります。	1-2-3-4-5
合計		点
6 みのまわり	①靴をきちんと履くことができます。	1-2-3-4-5
	②袖口をきちんととっています。	1-2-3-4-5
	③食事は三食とっています。	1-2-3-4-5
	④食べ物の好き嫌いはありません。(アレルギーは除く)	1-2-3-4-5
	⑤自分の体調や病状をわかっています。	1-2-3-4-5
	⑥薬を自分で管理できます。(必要な時に飲むことができます。)	1-2-3-4-5
	⑦季節や目的に合った持ち物の準備や服装ができます。	1-2-3-4-5
	⑧身だしなみ(洗顔・歯磨き・入浴・洗濯など)に気を付けられます。	1-2-3-4-5
	⑨友持ちの支えになる存在や物があります。	1-2-3-4-5
	⑩自分なりのストレス対処法があります。	1-2-3-4-5
合計		点

合計	1	点
	2	点
	3	点
	4	点
	5	点
	6	点



6カテゴリー
 ところ
 しやかい、
 がくしゅう
 からだ
 せいかつ
 みのまわり
 5段階で
 自己評価

2 自立活動の実際

(2) イ 自立活動における工夫

(ケ)
「Co-MaMe」の活用
: I II 課程

本校の特長
○可視化
○共通理解

① 令和 5 年 8 月 7 日 ② 令和 年 月 日

アセスメントシート

(1) Co-MaMe を活用して支援を行うことが適当だと思われる児童生徒を一人決めます。
(2) 対象児童生徒に当てはまる教育ニーズについて、チェック欄の①の項目に○、特に重要と思われる項目は◎ (3つ程度) をします (②の欄は数ヶ月後に児童生徒の変容を把握する時等に使用します)。

A 心理		①		②	
A1	不安・悩み (不安が強い、悩みが軽かられない)				
A2	感情のコントロール (気持ちを抑えられない、すぐに怒ってしまう)				
A3	こだわり (一つのことにとこだわると他のことが考えられない)				
A4	意欲・気力 (目標がもてない、やる気がおきない)				
A5	自己理解 (何が正しいか自分でも分からない)				
A6	気持ちの表出 (気持ちを言葉・文字に表せない)		◎		F
A7	情緒の安定 (嫌なことを思い出してしまう、イライラする)				
A8	気分の変動 (自分の好き嫌いがある)		◎		F
A9	自信 (自分に自信がない、自己肯定感が低い)				

B 社会性		①		②	
B1	集団活動 (集団の中にいると疲れる、ルールに従えない)				
B2	社会のルールを理解 (学校や社会の規則を守れない、自分で決める)		○		
B3	コミュニケーションスキル (あいづちがうてない、人の話が聞けない)				
B4	同年代との関係 (好きなことを考えた活動ができずトラブルになる)		◎		
B5	家族との関係 (家族との関係がうまくいかない)				
B6	教師との関係 (教師を信用しない、教師とトラブル)				
B7	異性との関係 (異性との関係がうまくいかない)				
B8	他者への信頼 (人が信用できない、人と関わりたいくない)				
B9	他者への相談 (困った時に相談できない)				
B10	他者理解 (他者や態度から気持ちが読めない)				

C 学習		①		②	
C1	学習状況 (勉強の仕方が分からない)				
C2	処理能力 (書きながら聞くなど、2つの作業を同時に行えない)				
C3	聞き取り・理解力 (話を聞いても理解できない、他の内容が分からない)				
C4	読み・書き (文字を書き換えるのが苦手、漢字を正しく書けない)				
C5	記憶力 (すぐに忘れてしまう)				
C6	注意・集中 (集中が続かない、気が散って集中できない)		○		
C7	学習への意識 (楽しい教科に出たくない)		○		
C8	読解 (文章の意味がわからない)		○		

D 身体		①		②	
D1	身体症状・体調 (お腹や頭が痛い、深呼吸や嘔吐がある)				
D2	巧緻性 (紙を折って操作することが指示通りできない)				
D3	動作・体力 (体が力まない、動きが早くできない)				
D4	多動性 (じっとしてられない、持てない)				
D5	感覚過敏 (においに敏感、大きな音が嫌い)				

E 学校生活		①		②	
E1	見通し (予定の変更を受け入れられない)				
E2	物の管理 (忘れ物が多い、物をなくしてしまう)				
E3	登校・入家への抵抗感 (学校に行きたくない、教室に入れない)				

F 自己管理		①		②	
F1	睡眠・生活リズム (睡眠が不規則になってしまうことが多い)				
F2	食事 (給食が食べられない、外食ができない)				
F3	服薬 (薬が忘れやすい、薬の管理が面倒)				
F4	病気の理解 (自分自身の病気を理解していない)				
F5	ストレスへの対処 (ストレスへの対処、苦しいことから逃れたい)		○		

(3) 指導の実際等 (事例 1 中 3)

ア 対象生徒

- ・ 中学部 I 課程 3 年
- ・ WISC-IV (言語理解 : 強み)

イ 中学部 2 年時の状況

- ・ 2、3 学期の出席は 12 日 (要出席日数 125 日)
- ・ 遠隔授業の検討 → 実施に至らず

(3) 指導の実際等 (事例1 中3・1学期)

ウ 学部主事、特別支援教育コーディネーターと協議(年度末)

○SCの導入

- ・ 4月から毎月1回

○SSWの導入

○担任が変わる

- ・ 担任との安心できる関係構築を優先

(3) 指導の実際等 (事例1 中3・1学期)

○出席日数、登校時間、学習内容

月	4月	5月	6月	7月
出席日数	1/(15)	2/(20)	5/(22)	3/(13)
登校時間	放課後	16:00~16:50		15:00~16:50
学習内容	顔合わせ	自立	自立+教科	自立+教科

○自立活動

4月	5月	6月	7月
-	実態把握 心理的な安定	<ul style="list-style-type: none"> ・実態把握 ・日記、目標決め ・心理的な安定 ・感情整理シート 	心理的な安定 <ul style="list-style-type: none"> ・日記、目標決め ・感情整理シート ・相談って何？

(3) 指導の実際等 (事例1 中3・1学期)

○課題解決シートでの取組

検討会議シート (校内支援委員会)

令和 5年 5月 22日 (月) 記入者氏名 []
(中) 学部 (I) 課程 [] ()

期待する生徒・児童の姿	好きなこと・得意なこと	できていること
週に1回程度の登校と、継続した学習 進路決定	手芸 小物づくり	月に1回の登校

・出席者:

★ 評価日 6/27 (火)

【課題は何か (課題の特定)】	【なぜ課題は生じるのか (課題の分析)】	【解決策 (計画)】	【評価 (変容と課題)】
<ul style="list-style-type: none"> ・困り感は? (学習・生活・対人関係) ・最優先課題は? 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題の原因を推測する 	<ul style="list-style-type: none"> ・課題を解決するためにやってみること ・だれが、いつ、何をするのか? 	<ul style="list-style-type: none"> ・この手立てでうまくいったか? ○効果あり、△効果なし、-実施無し ・次回の評価予定日 6/22 (木)
<ul style="list-style-type: none"> ・学校への登校が月に1回程度 学習が継続して行うことができない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・心理的な不安から ・見通しがもてない不安から 	<ul style="list-style-type: none"> ① SCを利用して、心理的な安定を図っていく。 ② 本人の希望に沿って、登校できる時間帯を調整する。 ③ 心理的な安定と学力保障を継続して行う。 	<p>担当者 []</p> <ul style="list-style-type: none"> ① SCに相談できるようになったことで、本人の心の負担を減らすことができた。 ② 本人の要望で毎週登校を始めてから休まずに登校することができるようになっている。 ③ 心理的な安定については、毎日 <p>○△- ①○ ②○ ③ 前半○</p>

(3) 指導の実際等 (事例1 中3・1学期)

○出席日数、登校時間、学習内容

月	4月	5月	6月	7月
出席日数	1/(15)	2/(20)	5/(22)	3/(13)
登校時間	放課後	16:00～16:50		15:00～16:50
学習内容	顔合わせ	自立	自立+教科	自立+教科

○自立活動

4月	5月	6月	7月
-	実態把握 心理的な安定	実態把握 心理的な安定 ・日記、目標決め ・感情整理シート	心理的な安定 ・日記、目標決め ・感情整理シート ・相談って何？

(3) 指導の実際等 (事例 1 中3・1学期)

○日記での取組の様子

(3) 指導の実際等 (事例1 中3・1学期)

○自分メーターでの取組

- 6つの項目

(こころ、しゃかい、がくしゅう、からだ、せいかつ、みのまわり)

- 5段階で自己評価

→自己評価がとても高かった。

→ミスが怖いのかも

(3) 指導の実際等 (事例1 中3・1学期)

○出席日数、登校時間、学習内容

月	4月	5月	6月	7月
出席日数	1/(15)	2/(20)	5/(22)	3/(13)
登校時間	放課後	16:00～16:50		15:00～16:50
学習内容	顔合わせ	自立	自立+教科	自立+教科

○自立活動

4月	5月	6月	7月
-	<ul style="list-style-type: none"> ・実態把握 ・心理的な安定 	<ul style="list-style-type: none"> ・実態把握 ・心理的な安定 ・日記、目標決め ・感情整理シート 	<ul style="list-style-type: none"> ・心理的な安定 ・日記、目標決め ・感情整理シート ・相談って何？

(3) 指導の実際

○感情整理シート
での学習の様子

感情整理シート

<p>日時</p> 	<p>場所</p> 	<p>出来事</p> 
<p>思ったこと</p> 		
<p>そのときの行動や発言</p> 		
<p>相手にしてほしかったこと</p> 		

(3) 指導の実際等 (事例1 中3・2学期)

○出席日数、登校時間、学習内容

月	9月	10月	11月	12月
出席日数	10/(20)	8/(21)	8/(20)	7/(16)
登校時間	14:00~17:00			
学習内容	自立活動、教科			

○自立活動

9月	10月	11月	12月
相談の仕方 不安なことの整理、対処法			

(3) 指導の実際等 (事例1 中3・2学期)

○不安なことの整理、対処法

(3) 指導の実際等 (事例1 中3・3学期)

○出席日数、登校時間、学習内容

月	1月	2月	3月
出席日数	9/(17)	10/(19)	4/(7)
登校時間	14:00~17:00	12:00~16:00	
学習内容	自立、教科		

○自立活動

1月	2月	3月
<ul style="list-style-type: none"> ・心理的な安定 入試に向けて 見通しを持つ 	<ul style="list-style-type: none"> ・心理的な安定、人間関係の形成 高等部（将来的に1日を学校で過ごすこと）を見据えて、休み時間・給食時間の過ごし方等 	

(3) 指導の実際等 (事例1 高1・1学期)

○出席日数、登校時間、学習内容

月	4月	5月
出席日数	8/(15)	9/(21)
登校時間	5, 6 限目	
学習内容	他の生徒と同じ	

○担任は、コーディネータ、SC等に相談。

○いくつかの方策を活用

○自立活動の学習で、伝えたいことが伝わるようになった。

3 職員の専門性向上の取組

(1) 研修

- ア 全体研修
- イ グループごと研修
- ウ 自主研修
- エ 熊本高専との協働

(2) 取組の実際 (事例2)

(1) ア 全体研修

ア 殆どやっていない

○スキルアップ研修 1 (県教委主催)

- ・基礎講話 2回 (対面型、オンデマンド)
- ・R5年度から実施

(1) イ グループごとの研修

ア 指導教諭による研修

- ・ R5は3回実施。(内、自立活動助言2回)
- ・ 重度重複・訪問教育部門で実施

イ 専門家活用研修：職員の希望

- ・ R5は6回（講話3、実技研修等3）
- ・ 臨床心理士、言語聴覚士、理学療法士

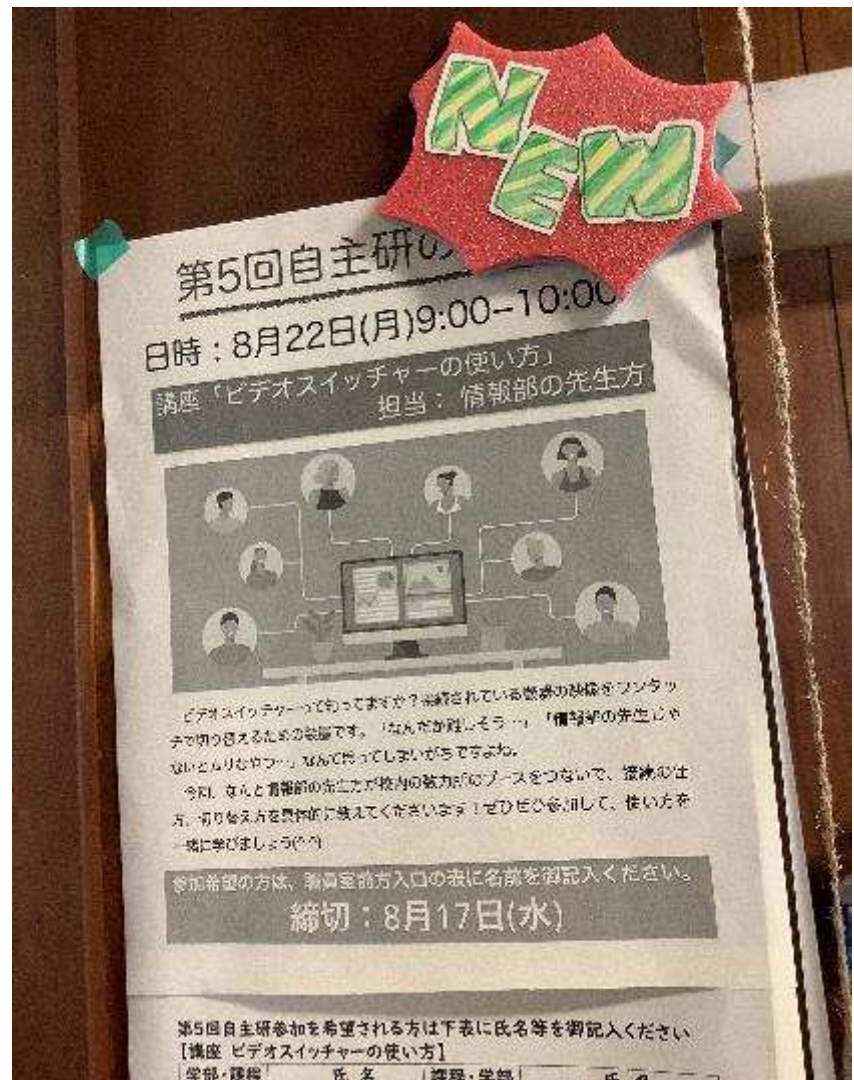
ウ スキルアップ研修

- ・ 代表事例の検討

3 職員の専門性向上の取組

(1) ウ 自主研修

- ・ 専門性の高い本校職員が講師
- ・ 職員のニーズに直結する研修
- ・ 結果として少人数



(1) エ 熊本高専との協働

○熊本高専からKME（高専マルチファンクションインポ^oイント）を借用

- 本校職員向け講習会（6月…8人）
- 実践報告会（7月、9月）
- 振り返りミーティング（1月）

(2) 取組の実際 (事例2)

- ア グループ研修
 - : スキルアップ研修2
- イ 代表事例の研究授業
対象児童
 - ・ 小学部Ⅲ課程
(重度重複部門)
- ウ 実りある研修に

(2) 取組の実際 (事例2)

- ウ 管理職、コーディネータ学部主事等で
研修の目的を共有
- ・ 専門性の底上げ
 - ・ 一人の事例について、グループ職員全員で
実態把握から授業づくりまで協議しながら



やる気はあるけど、
どうしてよいか
わからない

(2) 取組の実際 (事例2)

エ 取組の経過

- (ア) 個別の指導計画の再検討 7, 8月 : 7回
- (イ) 研究授業に向けた指導案作成等 8, 9月 : 8回
- (ウ) 研究授業 9月 : 1回
- (エ) 事例検討 10, 11月 : 2回
- (オ) 次年度の自立活動個別の指導計画作成
12, 1月 : 2回

(2) 取組の実際 (事例2)

- 研究授業、授業研究会
 - ・ 9月 1回

体を揺らす、体に触れる

ツリーチャイムを鳴らす

(2) 取組の実際 (事例2)

- 事例検討(10, 11月 2回)
 - ・ 研究授業の動画を見て評価
- 次年度の自立活動個別の指導計画作成
 - ・ 今後の方向性の検討

4 課題と本年度の取組

(1) 課題

ア ひとえに職員の専門性向上

(2) 本年度の取組

ア スキルアップ研修の活用

イ 研修時間の確保（5時間）

→授業の削減